

# はばたこう 明日へ

巻頭言

## 三つのこと ②

坪田 耕三 青山学院大学教育人間科学部教授

道德の評価特集

## 道德科における 評価の在り方 ④

授業づくりのヒント おもしろい道德授業を創る②

## 感動した素材を集めよう! ⑧

鈴木 健二 愛知教育大学教育実践研究科教授

授業実践

## 道德科の アクティブ・ラーニングで、 学級をつくる! ⑩

竹井 秀文 名古屋市立下志段味小学校教諭

「考え、議論する」道德授業をめざそう!②

## 手作り連想マップの活用 ⑫

上園 恒太郎 長崎総合科学大学教授

教材活用のアイデア

## 人物教材の作り方入門 ⑭

木原 一彰 鳥取市立世紀小学校教諭



# 三つのこと



つぼた こうぞう  
**坪田 耕三**

青山学院大学教育人間科学部教授

## 六

年生の教室です。

ある日の帰り支度の時でした。

ふと、一番前の席に座っている子の様子が目に留まりました。カバンの中にファイルを入れているのです。

ちょっと気になりましたので、「ファイルの中に何を入れているの。」と聞きました。

そうしたら、中から一枚の紙を出して見せてくれました。それは、私のクラスの「学級通信」だったのです。

なんと、私が一年生を受け持っていた時のものです。しかも、初めて子どもに配った学級通信でした。

入学式のあとは、写真を撮ったり、教室で親子一緒に担任の話の聞いたりします。

この学級通信には、その時に話をしたことが書いてありました。

六年生になってカバンの中に入れていたのがこの学級通信。六年前の入学二日目に子どもに配ったものでした。よくもまあ大切にとっておいてくれたなと感じいったのです。

「昨日の入学式の後に話したこと」と題して話の内容が書かれています。

その内容は、入学式の前の日に練ったものでした。当日は親も子どもも担任の話の聞きます。その時に何の話のしようかと考えました。

「君たちに今日勉強してもらいたいことを言います。」

と言いながら、黒板に、「う」「ぶ」「ひ」と書いたのです。みんな何が登場するのか興味津々。

「この文字の下に文を書きますから、今日はこれを覚えていってください。これは君たちが、これから学校に通う六年間ずっと必要なことですよ。」と言いました。

親も静まり返って一生懸命に聞いていました。中にはメモを取っている人もいました。

早速、黒板に書きました。

「うそをついてはいけません。」

「ぶつてはいけません。」

「ひとのものをとってはいけません。」

この三つのことでした。

子どもに声を出させて読ませました。

若干の解説も加えました。

「嘘をついてはいけないということは、ずっと、正直に生きるということですよ。」



「ぶってはいけないということは、人を傷つけてはいけないということ。もちろん言葉で心を傷つけることもいけないこと。」

「人のものをとってはいけないとは、物ばかりでなく、アイデアを盗むことも含まれるのです。」  
といったことを話したのです。

もちろん、なかなかわからないことも多くあります。しかし、学校に来て初めて先生の話を書くことの印象は大きなものです。

翌日には、このことを学級通信に書きました。大事にしてくれるといいなと思ったのです。

そして、そんなことがあったことは、私はとっくに忘れていたのです。

ところが、六年もたったこの日、帰りの支度をしている時に、一人の六年生に思い出させられました。

この子たちに配った初めての学級通信をずっとカバンに入れて学校に通っていた子がいたことに感動しました。

「ずっと毎日カバンに入れていたのです。」と言うではありませんか。ビックリするやらうれしいやら。子どもの心に少しは気持ちが伝わったのかと感動しました。

長いこと学校の教員をしていると、こんなちっぽけなことにたびたび出会って大きな喜びを感じます。子どもから与えられる喜びは他に代えがたいものです。

新しい学習指導要領が出ようとしています。学習指導要領の全面改訂に先駆けて、「道徳」が教科化

されます。ことの是非はともかく、きっとそこにくつかの価値の基準が示されることだろうと思います。

しかし、人が生きるうえで大切にすべきことは変わりません。

これが何かを、教師が一人一人しっかりと考えてもらいたいと思います。

前述の例は私が持っている価値観です。

与えられたからやらなければならない価値観ではありません。

本当に子どもに影響を及ぼす価値観は何かを考え、それをもって教室に臨むことが肝要と思います。「嘘をつかない。」

「傷つけない。」

「盗まない。」

この三つはとても大切なことです。

人がやってはいけないこと。なかなか難しいことでしょう。でも、一人一人が小さいうちから身をもって感じ取ってくれば、大きく育っていくときにきっと何かが変わります。教える側の先生が、確固たる信念をもって子どもとともに楽しむ教室づくりができることを期待します。

坪田 耕三 (つばた こうぞう)

1947年東京生まれ。青山学院大学文学部教育学科卒業。筑波大学附属小学校副校長を勤め、筑波大学教授をへて、現在、青山学院大学教育人間科学部教授及び早稲田大学非常勤講師。『坪田耕三の切っ掛けは算数力』(教育出版)、『算数科 授業づくりの基礎・基本』(東洋館出版社)、『算数的思考法』(岩波書店)、など著書多数。



# 道徳科における評価の在り方①

## 「特別の教科 道徳」における評価とは？

「特別の教科 道徳（以下道徳科）」の評価の在り方については、文部科学省において平成27年6月より「道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議」で検討され、平成28年7月に通知が出されました。平成30年度の教科化に伴い、道徳科の評価も始まることになります。

基本的な方向性は以下の通りです。

○数値による評価ではなく、記述式とすること

道徳性の育成は、各教科等で育成する資質・能力の三つの柱の土台であり、目標でもある「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）」に深く関わります。資質・能力の三つの柱や道徳的判断力、心情、実践意欲と態度のそれぞれについて分節し、観点別評価（学習状況を分析的に捉える）を通じて見取ろうとすることは、児童生徒の人格そのものに働きかけ、道徳性を養うことを目的とする道徳科の評価としては妥当ではありません。

○個々の内容項目ごとではなく、大きくくりなまとまりを踏まえた評価とすること

学習指導要領上、道徳科の目標は「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う」ことです。内容項目は、道徳性を養うための手掛かりとなるものであり、道徳性そのものではありません。評価の対象は「学習状況及び道徳性に係る成長の様子」です。したがって内容項目自体が評価の対象となることはありません。

○他の児童生徒との比較による評価ではなく、児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価として行うこと

教師が児童生徒の成長を見守り、努力を認めたり、励ましたりすることによって、児童生徒が自らの成長を実感し、更に意欲的に取り組もうとするきっかけとなる評価を旨とするため、個人内評価をすべきとの方向が示されています。

個人内評価とは、児童生徒のよい点をほめたり、さらなる改善が望まれる点を指摘したりするなど、児童生徒の発達の段階に応じて励ましていく評価のことです。

○学習活動において児童生徒がより多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点を重視すること

児童生徒が一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているかどうかという点については次のように考えることができます。例えば、道徳的な問題に対する判断の根拠やその時の心情をさまざまな視点から捉え考えようとしていることや、自分と違う意見や立場を理解しようとしていること、複数の道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行動を多面的・多角的に考えようとしていることを、授業中の発言や感想文や質問紙の記述等から見取るという方法が考えられています。

自分自身との関わりの中で深めている点については、読み物教材の登場人物を自分に置き換えて具体的に理解しようとしている、道徳的価値を実現することの難しさを自分事として捉え考えようとしている等の視点が考えられます。

○道徳科の学習活動における児童生徒の具体的な取組状況を一定のまとまりの中で見取ること

評価にあたっては、1回1回の授業の中で全ての児童生徒について評価を意識して変容を見取るのは難しいため、児童生徒が一年間書きためた感想文をファイルして活用するなど、年間35時間という長い期間で見取るための工夫が必要になります。

○発達障害等のある児童生徒が抱える学習上の困難さの状況等を踏まえた指導及び評価上の配慮を行うこと

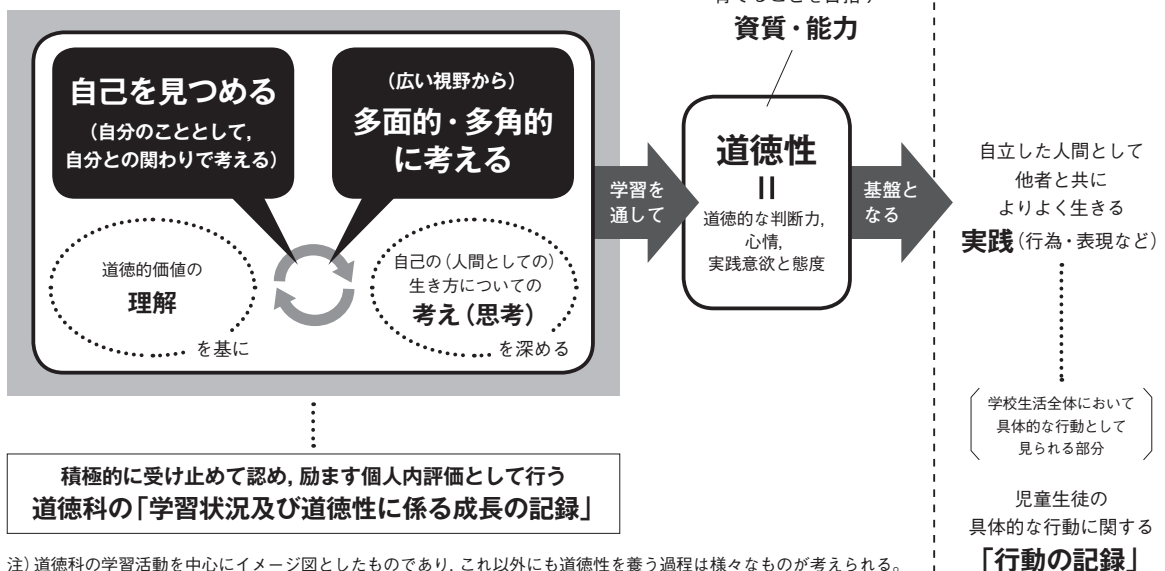
道徳科の指導に当たっては、児童生徒の障害による学習上の困難さ、集中することや継続的に行動をコントロールすることの困難さ、他人との社会的関係を形成することの困難さなどの状況ごとに、指導上の必要な配慮を行うことが求められます。こうした配慮を継続的に行うことができるよう、個別の指導計画等に指導上の必要な配慮を記載することが考えられています。評価を行うに当たっても、困難さごとの配慮が必要になります。前述のような配慮を

伴った指導を行った結果として、相手の意見を取り入れつつ自分の考えを深めているかなど、児童生徒が多面的・多角的な見方へ発展させていたり道徳的価値を自分のこととして捉えていたりしているかを丁寧に見取る必要があります。

○調査書に記載せず、入学者選抜の可否判定に活用することのないようにすること

道徳科における学習状況や道徳性に係る成長の様子の把握については、次のような点が大切になります。児童生徒自身が、入学者選抜や調査書などを気にすることなく、真正面から自分事として道徳的価値に多面的・多角的に向き合うことこそが道徳教育の質的転換の目的です。したがって「各教科の評定」や「出欠の記録」、「行動の記録」、「総合所見及び指導上参考となる諸事項」などとは基本的な性格が異なるものであり、調査書に記載せず、入学者選抜の可否判定に活用することのないようにする必要があります。

### 道徳性を養うために行う道徳科における学習



注) 道徳科の学習活動を中心にイメージ図としたものであり、これ以外にも道徳性を養う過程は様々なものが考えられる。

# 道徳科における評価の在り方②

## 指導要録の改訂

道徳の教科化により新たに必要になるのが、指導要録における学習状況や道徳性に係る成長の様子についての記述です。指導要録は「学籍に関する記録」と「指導に関する記録」からなります。その様式は市町村教育委員会によりますが、文部科学省では学習指導要領改訂ごとに参考様式を公開しており、今回道徳科の評価に関する専門家会議の報告を受けて新しい指導要録の参考様式を公開しました。

指導要録は、すべての学校が備えておかなければならない公簿です。学校長は、学習指導要領の趣旨に基づいて指導要録を作成する義務があります。学校教育法施行規則第24条には「校長は、児童等が進学した場合においては、その作成に係る当該児童等の指導要録の抄本又は写しを作成し、これを進学

先の校長に送付しなければならない」と規定され、児童の学籍と指導について学校外部に対する証明の機能を果たしています。指導要録は5年間（ただし入学と退学等学籍に関するものは20年間）の保存が定められています。

これに対して通知表は、学習や生活の状況について児童生徒や保護者に伝えることを目的として各学校が様式を決めて作成することになっています。名称も学校独自のものを使っていますし、項目設定やデザインも学校ごとに工夫をしています。

指導要録と通知表とは法的なつながりはありませんが、多くの学校では指導要録に示された項目を通知表に設定しています。学校においては、学期ごとの評価として通知表を作成し、それをもとに指導要録が作られています。つまり、毎時間の授業における児童生徒の見取り、学期ごとの通知表、1年間を通しての指導要録という関連になります。

### 小学校児童指導要録(参考様式)

様式2(指導に関する記録)

児童氏名		学校名		区分	学年	1	2	3	4	5	6				
				学級											
				整理番号											
各教科の学習の記録						特別の教科道徳									
I 観点別学習状況						学年 学習状況及び道徳性に係る成長の様子									
教科	観点	学	年	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
国語	国語への関心・意欲・態度														
	話す・聞く能力														
	書く能力														
	読む能力														
社会	言語についての知識・理解・技能														
	社会的事象への関心・意欲・態度														
	社会的な思考・判断・表現														
	観察・資料活用														
算数	社会的事象についての知識・理解														
	算数への関心・意欲・態度														
	数学的な考え方														
	数量や図形についての技能														
数	数量や図形についての知識・理解														
						外国語活動の記録									
						観点	学	年	5			6			
						コミュニケーションへの関心・意欲・態度									

## 多様な評価方法

指導要録や通知表などによる評価は、学期など一定の学習期間のまとまりの中で、大きくくりで記述することになりますが、その記述のためには、1単位時間ごとの授業における見取りを充実させること、そして児童生徒の学びの過程に着目したとりまとめが必要になります。評価方法としてよく知られているものとして、パフォーマンス評価やポートフォリオ評価、ルーブリック評価等をあげることができます。それぞれ評価方法の特徴がありますが、いずれの評価方法においても大切なことは、教師と児童生徒が共同で行うこと、児童生徒の具体的な作品やノート等を蓄積すること、それらを整理することです。しかし、どの評価方法を用いる場合でも、単なる資料収集に留まらないようにするために、年間指導計画の中にあらかじめ位置づけることが最も重要になります。

## 具体的な記述

上記の評価方法を機能的に生かすためには、道徳ノートやワークシート、振り返りシートや、児童生徒が行う自己評価や相互評価を積極的に取り入れることが必要になります。児童生徒の自己評価からは、印象に残った授業、自分が大切だと思う道徳的価値や生き方、自分の心の成長や行動の変化を読み取ることができます。児童生徒の心に強く残った授業を中心に、自己を見つめさまざまな生き方を知ることができたか、自分の人生について考えるようになったか等から記述式の個人内評価をすることがで

きます。

大切なことは、児童生徒の記述と授業者の評価をセットにすることです。そのことによって、児童生徒にとっては行動化の意欲が高まり、授業者にとっては行動化の見守りや支援の手立てを考えることができ、保護者にとっては行動化の見守りや支援についての家庭内での話し合いをすることができるようになります。

## 授業者による記述式個人内評価の一例

- ・児童生徒の記述（道徳ノート等による）  
小学校1年「はしの上のおおかみ」の授業  
Q；これから小さい子にどのようにしてあげたいですか。  
A；やさしくして、自分もちっちゃい子もうれしくなってもらうようにする。だから自分も楽しく、あいてもたのしくする。
- ・授業者のコメント  
ひとにやさしくすることのたいせつさに気がつきましたね。
- ・通知表への記述案  
クラスの人と話し合う活動を通して、道徳的価値にかかわる問題を自分自身の問題として受け止めることができました。相手の思いを聞きながら話し合うことで、よりよい自分になりたいという思いを強めています。
- ・指導要録への記述案  
クラスの人と話し合う経験を積み重ねることによって、互いのよい点を認め合い、自分を高めようとする意欲が見られる。  
※編集部の案として提示しています。

授業づくりのヒント おもしろい道徳授業を創る

# 感動した素材を集めよう!

すずき けんじ  
鈴木 健二 愛知教育大学教育実践研究科教授

## ●素材に対する意識

感動した素材を数多く収集するためには、「何でも素材になる」という意識をもつことが大切です。

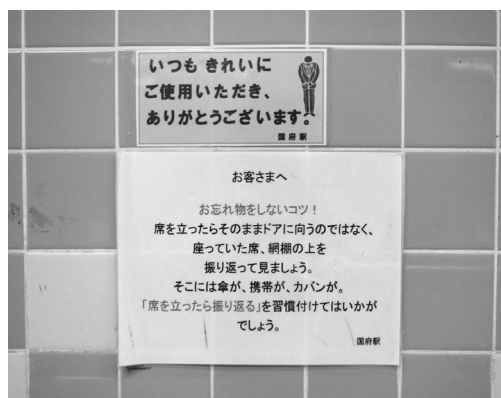
このような意識をもつと、身のまわりにあるさまざまな素材が見えてくるようになります。例えば次のような素材です。

書籍、絵本、雑誌、機内誌、新聞記事、漫画、チラシ、貼り紙、ポスター、テレビ、ラジオ、映画、自然、子どもの姿など。

よい素材を集めるための基本は、「質より量」です。素材になりそうなものを数多く集めているうちに、次第に質が伴ってくるのです。

## ●駅のトイレにも素材がある

国府駅（愛知県）のトイレを利用した時、次のような貼り紙が目にとまりました。



目にとまったモノは、デジカメで撮影します。

この時点で、教材になるかどうかは考えません。気になったらとりあえず撮影するのです。このような姿勢が、よい教材として発展する素材の発見につながっていきます。

ところで、なぜこんな貼り紙が目にとまったのでしょうか。それは、あまりにも具体的な言葉が書いてあったからです。このような貼り紙を見ると、「なぜこれほどまでに具体的に書く必要があるのだろうか」という疑問がわいてきます。

すると、ここまで書かなければならないほど、忘れ物が多いのだらうということに思いあたります。

## ●疑問をもとに調べる

疑問をもとに調べてみると、興味深い事実が見えてきます。

ある広告の「全国の忘れ物の数」というデータには、次のような事実が掲載されていました。

傘……………327,229本

携帯電話……………22,131個

手袋……………17,540個

驚いたことに、次のようなデータも示されていました。

2億円……………2人

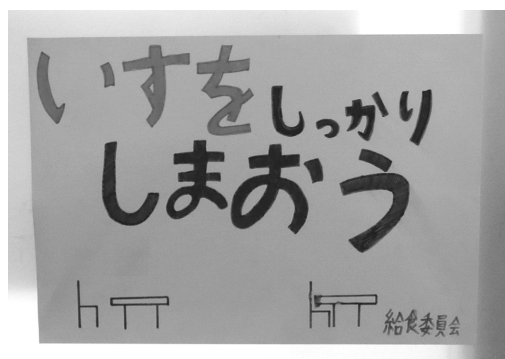
いかがでしょうか。

「何でも素材になる」という意識をもつと、たまたま利用したトイレからも素材が見つかるようになるのです。



## ●生徒が作った貼り紙も素材になる

ある中学校のランチルームで発見した貼り紙です。



この貼り紙を見て、「実におもしろい！」と思いました。どこがおもしろいのでしょうか。

給食委員会であれば、「残さないで食べましょう」というような給食に関することが書かれるのが普通です。ところが、この貼り紙には、「いすをしっかりとしまおう」と書いてあったのです。どちらも節度、節制に関わることですが、視点のずれを感じることができました。

このようなささやかなギャップをおもしろいと感じることが素材の発見につながります。

## ●広告も素材になる

2015年、ユニクロが衣料回収の強化プロジェクトを行いました。

世界中の難民・避難民に衣料を届けるため、1000万着の衣料を回収するプロジェクトです。そして、日本を含む15の国と地域で、1000万着を超える衣料が回収され、ルワンダの難民キャンプなど、支援を必要としている人たちの元に届けられました。

こちらは、このプロジェクトの広告と、1000万着回収達成後の広告です。



しかし、UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）によると、2015年時点で、難民・避難民は約6,500万人以上いるとされています。

このような状況を知ると、世界はよい方向に向かっているのかどうか不安になってきます。

広告1枚であっても問題意識をもつことにより、現代の課題を取り上げる道徳授業の素材となる可能性が出てくるのです。

身のまわりにあるさまざまモノ全てが素材になるという意識をもちましょう。

これまで見逃していたモノが、今までと違った姿で見えるようになってくるはずですよ。

# 道徳科のアクティブ・ラーニングで、学級をつくる！

～考え、議論する道徳で学級が深まる～

たけい ひでふみ  
竹井 秀文

しむしたみ  
名古屋市立下志段味小学校教諭

## ●はじめに

前回は、道徳授業の質的転換によって、いかに学級が変わるのかということ提案した。今回は、さらに一歩論述を進めて、「特別の教科 道徳（以下、道徳科）」におけるアクティブ・ラーニングによって、いかに学級経営が変わり、子どもたちの生活が豊かになるかということ述べていきたい。

## ●アクティブ・ラーニングについて

新学習指導要領の目玉として、主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」、以下AL）がいよいよ動き出す。このALで、育成する資質・能力は、以下の三つの柱で整理されている。

- ・何を理解しているか、何ができるか（知識・技能）
- ・理解していること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）
- ・どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）

つまり、道徳授業においても知識・技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力、人間性等といった情意・態度等に関わるものの全てを、いかに総合的に育てていくということが求められているのである。

## ●道徳科におけるAL

道徳科におけるALは、「考え、議論する道徳」

への質的転換を図るための重要な視点である。それは、道徳的問題に対する自分の考えと自分と異なる他者の考えを交わせ、道徳的価値について多面的・多角的に学び、実践へと結び付け、習慣化していく指導へと転換できるからである。

つまり、道徳科におけるALは、道徳的価値をどのように学ぶかという学習プロセスを重視した授業づくりを目指している。そこで、以下の点に気を付けて、ALを取り入れた授業づくりを進めていきたい。

- ・導入では、道徳的問題を発見し、解決に必要な知識・技能を収集・蓄積する。
- ・展開では、知識・技能を組み合わせ、活用しながら問題解決に必要な思考を行う。そして、議論をとおして解決の方向性や方法を比較・選択する。
- ・終末では、結論を決定するために必要な判断や意思決定を行い、相手や状況に応じた表現をする。

## ●道徳科のALと学級経営との相互補完

上記のような授業を行うために、必要不可欠な基盤がある。それは、子どもたち一人一人の主体性と協働性である。この二つが育っていなければALは単なる「型」に陥り、深い学びのある授業はできない。そもそも、主体性や協働性は、学級経営において最も大切にされている視点でもある。主体性とは、自ら考え、動くことである。協働性とは、仲間と協力し、何かをつくり出すことである。学級担任がよく口にする「自分で考えよう。」や「友達と協力しよう。」とは、まさにこの二点を育成するための指導助言である。逆にいえば、道徳科のALにより、主体性や協働性を育み、学級がよりよい集団へ成長できるのである。よって、道徳科のALと学級経営は、相互補完の関係にあるといっても過言ではない。

## ●実践紹介（小学校1年生実践）

今回、紹介する実践は、主題「しんせつとはどうすること」内容項目「B 親切、思いやり」である。

親切は、親しいほどに切実になる心の動きであり、思いやりは、相手の立場にたち、相手に思いをやる心の動きである。どちらも心の動きであるが、その



心の動きが高まることにより、親かな姿、思いやりのある姿へつながるのである。この心の動きこそ、温かい心である。1年生にとって、この温かい心を学ぶことは、これからはじまる六年間の小学校生活における人間関係構築において大切な基盤となる。

## ●授業展開(略案)

学習活動(○主な発問)	指導上の留意点
<b>【導入】「親切とは何か」について考える。</b> ○席を譲ろうと思ったけれど、譲れなかった日記を紹介する。 ○「親切」とはどのようなことでしょうか。	<b>道徳的問題の発見</b> <input type="checkbox"/> 生活の中にある道徳的問題を発見する。 <input type="checkbox"/> 何ができるか考える。
<b>【展開前段】「はしの上のおおかみ」前半を読む。</b> ○このお話で困ったことはなんでしょう。 ○おおかみはどうしたらよいでしょう。 ○もし相手がくまなら、どうすればよいでしょう。 ☆おおかみ、うさぎ、くまの役で役割演技する。	<b>問題解決</b> <input type="checkbox"/> 教材中の道徳的問題を発見し、どうしたらよいかを考える。 <input type="checkbox"/> それぞれの場面での役を演じ、比較する。 <input type="checkbox"/> どのやり方が最もよいか議論し、問題を解決させる。
<b>【展開後段】「はしの上のおおかみ」後半を読む。</b> ☆おおかみ役とくま役で役割演技する。 ○三つのやり方でどれがいちばんよいでしょう。	
<b>【終末】「親切とは何か」をワークシートに書いて発表する。</b> ○親切とはどういうことかな。 ○これからの生活でどんなことができるでしょうか。(書いて)発表してください。	<b>問題解決の結論を出す</b> <input type="checkbox"/> 「親切とは何か」という問題に対する結論を出す。 <input type="checkbox"/> 今後の生活に生かす振り返りをさせ、表現させる。

## ●授業の実際

まず、導入では、子どもたちに道徳的問題を発見させ、主体的に考えるスタートづくりをする。

**【日記】**バスの中で、おとしよりにあいました。せきをゆずろうとおもったけれど、ゆずれませんでした。こんどはせきをゆずれるようにしたいとおもいます。

T：(日記を紹介した後) この子は親切ですか？

子どもたちの意見が分かれ、自然な議論が始まる。「親切とは、何か」「親切とは、どうすることなのか」などの問題を発見する。

次に、展開では、教材『はしの上のおおかみ』の役割演技をとおして、どの方法がよいか議論する。

T：①相手がもどる②自分がもどる③どちらもわたる、①から③でいちばんよい方法はどれでしょう。

C：③だよ。だって、おたがい気持ちがいいよ。

C：そうだよ。自分もうれしいし、相手もうれしい。

C：心がつながるから、うれしいんだと思うよ。

C：心がつながって、みんなが笑顔になれる。

C：お話の一本橋のように心がつながるんだよ。

C：それが親切じゃないの。みんなハッピーになる。

C：人の気持ちを考える親切って、すごいよね。

このような議論ができるのは、一人一人が、親切に対して自ら考え、そのよさについて、学級全体でまとめようとする主体性・協働性が育まれているからである。そして、その基盤がある学級は、議論しても人間関係が円滑で、よりよい生き方へ向けて深い学びができる集団に成長しているのである。このように、道徳科におけるALは、学級経営を補完し、学級をより深めていくのである。

最後に、子どもが書いたワークシートを紹介する。これは、授業の終末において、「親切とは何か」という問題に対する結論を自分の考えとして書いて、表現したものである。

**ワークシート**

○「しんせつ」とは、どのようなことでしょうか。

人を大切に思う人の話しをちゃんと聞く。

○はしの上のおおかみは どうするだろう。

自分もあんなに嬉しかったらいいよ。

自分もあんなに嬉しかったらいいよ。

○どのやり方が 一番いいかな。それは なぜですか。

どちらもわたる方が気持ちいいからいいよ。それが親切。

○これから、小さな子どもに どういうにしてあげたいですか。

やさしくして、自分もあんなに子にもうれしくなってあげようとする。だから自分も楽しく、あいてるのしる。

## ●おわりに

ALを取り入れた道徳授業の積み重ねは、子どもたちをアクティブ・ラーナーにする。だから、学級はいきいきとする。そして、子どもたちどうしの人間関係も深まり、学校生活はより豊かなものになる。

ALを単なる学習活動にしてはいけない。道徳科のALと学級経営の相互補完により、子どもたちの人間性は大きく成長する。そのことを、私たちは決して忘れてはいけない。

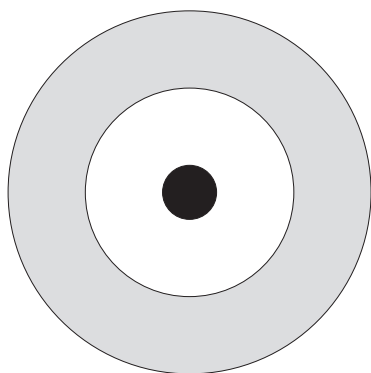
「考え、議論する」道徳授業をめざそう！

# 手づくり連想マップの活用

かみその こう たろう  
**上 菌 恒太郎** 長崎総合科学大学教授

手づくり連想マップは、意識に浮かぶ言葉を記す道具であり、みんなと意見交換ができる、協同の学びの装置になる。手づくり連想マップには、意見としてまとめる以前、挙手する間に忘れる以前、文章にする以前の、思いついた段階の言葉を記す。そのため、文章にする際の文法や、教室の発表ルールに煩わされず、言えずに終わることもなく、下図の手作り連想マップが協同のメモになる。言いかえると、教員中心から脱し、教員が子どもの論議のファシリテーターになって、子どもが考え、議論する授業にするための装置である。

この装置は、私の連想法による連想マップを見て、長崎大学教育学部附属小学校の長田誠が考え出し、久留米市の森永謙二が応用した。いたって簡単な装置だ。



手づくり連想マップ

まん中に、授業のねらいを表す言葉を書き入れておくことが多い。ということは、授業者に厳しい要求を突きつけている。授業のねらいを一言で表さない、しかも子どもがわかる言葉で、と要求する。

学習指導要領上の価値項目に当てはめれば授業のねらいの記述は終わり、という学習指導案では対応できない。1時間の授業で何をやるか、はっきりさせることを要求する。

この手づくり連想マップをA3ほどの大きさに印刷し、子どもたちが机を寄せ合ったまん中に置いて、一番外側の周に、一人一人の子どもが想起した言葉を何でも、書いてもらう。四人グループだと、みんなが四方向から書き込むから、自分の思いつきと同時に周りが何を書いたかも見える。

授業の進行に従ってグループで話し合いながら、中間の空間に、合意できる考え、態度などを書き込む。外周の思いが再度、合意にいたって書かれることもあるし、新しい考えがグループの意見として登場するときもある。そのとき、子どもたちが頭を突きあわせるように話し合い、書くかが、子どもの動きについての一つの見どころだ。手づくり連想マップは、個人の見解からグループの合意への考えの移ろいを可視化する装置でもある。グループがどのような意見から出発してどのような合意にいたったか、机間巡視する教員には、話し合いに耳を傾けていなくても、流れが見える。グループの話し合いが見えるから、協同の学びの授業研究にうってつけだ。

そのあと教員が、各グループの手づくり連想マップを使って、学級全体の話し合いへと導けばよい。個人、グループ、教室へと段階を追って意見を練り上げる、いわば個人から公共へと合意形成する過程を演出する装置だ。

この装置では、多様な意見は歓迎だ。議論となると、教員はすぐに二分法に頼る。二つに分けて討論



すれば、考え、議論する道徳になると考えがちだ。そんな授業では、道徳科はすぐつぶれる。子どもの考えや心は、二つに分類できるほどちやちやではない。一人一人の子どもの意見に耳を傾ける姿勢のない、予定したねらいに行き着かせようとする、あるいはばらばらの意見を放置してオープンエンド、という授業とは、そろそろさようならしよう。

台湾の先生は、手づくり連想マップを黒板に並べて貼って、教室全体の論議を進めた。森永謙二は、2016年12月に久留米と上海で行った授業で、グループの合意を複数の短冊にまとめ直させて黒板に貼り、意見によって短冊を動かして、つまりKJ法を取り入れて、教室全体で意見をすりあわせた。

資料「ミサゴのいる山」による小学校6年生のクラスの12月の授業で、森永謙二は、手づくり連想マップの外周に、準絶滅危惧種のミサゴを見に行くか、児童に態度を書かせた。見に行く：「動物が好きで暮らしが気になる」「見たことがないし、どうやってえさをとるのか、ヒナも見たい」。見に行かない：「驚かせたら悪いし、見られるとは限らない。自然の雰囲気は人が入るとこわれそうだから、行かない」「鳥に迷惑をかける」。迷う：「見たい気持ちがあるけど、驚かせて威嚇されると恐いし、鳥を不安な気持ちにさせるのは嫌」。

まん中の提示語は「見守る」だった。手づくり連想マップを見ると、子どもたちはグループ内で次の合意にいたった：「ミサゴ＝環境」「水を汚さない」「木(エンピツや机)を大切に」「空気を汚さない」「追いすぎない、途中でやめる」「ふだんから動物を守るために自然を守る」「静かに」「温かく」など。

この先さらに人間と自然の関係について、森永謙二は短冊を動かして考えさせた。そして、授業の終わりに、自分の未来の姿を想像させ、今の自分への振り返りを要請した。振り返りは、価値を自分に定着させる作業だ。

その結果、この授業はすごいことになった。授業者も予想しなかった思いに子どもが到達した。連想

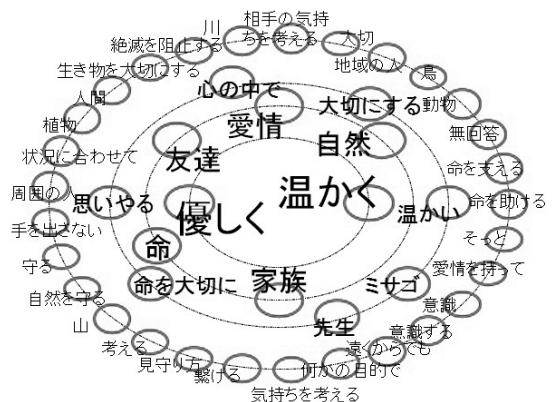
法によって提示語〈見守る〉から思い起こした言葉を、授業前と授業後で比較評価すると、子どもの考えががらりと変わったことがわかる。授業前、子どもたちは〈見守る〉という、「先生」(学級の子どもの数の57.1%が想起)、「家族」(42.9%)、「友だち」(35.7%)、「親」(28.6%)、「警察」(28.6%)や「地域の人」(21.4%)が「温かい」(21.4%)と、どちらかというで見守ってもらっていることを想起していた。

### 連想マップ(Association Map)

Date: 2016年12月 Module Version 4.03

2016年12月久留米の小学校 授業後 Cue Word: 見守る

回答者数: 14名, 回答語種数: 43種類, 回答語総数: 68語, エントロピ: 5.19, 連想量総和: 14.14



### 〈見守る〉に関する授業後の子どもの意識

それが授業を通じて、授業前の回答語種数の88.6%が消えて、90.7%に及ぶ新しく獲得した言葉で考えた。すなわち、「温かく」(35.7%)、「優しく」(35.7%)、「愛情」(21.4%)をもって、「命」(21.4%)と「自然」(21.4%)について見守る、と。自分がどのように、何を見守るかを意識した。「家族」(21.4%)、「友だち」(21.4%)への思いは失われていない。

授業において形成したい見守る態度にいたったみごとな授業である。手づくり連想マップという道具があって可能になった、子どもの主体的な態度形成の授業である。優れた道具を使い、授業評価を行うべきだと思う。

教材活用のアイデア

# 人物教材の作り方入門

きはら かずあき  
木原 一彰 鳥取市立世紀小学校教諭

## ●はじめに

道徳の教科化が正式にスタートするまで、小学校は残り1年、中学校でも2年あまりです。もう間近に迫っているのですが、小・中の学校現場では、「これまでと大きくは変わらないのでは？」といった、やや後ろ向きな空気を感じることがあります。

しかし、これまでの道徳の時間とは、やはり大きく異なる部分があるのです。それは、「教科書を用いて学習をすること」です。これまでも、副読本や『私たちの道徳』を用いて授業実践していたとは思いますが、教科書が導入されるということは、「年計ではこの教材だけれど、扱いにくそうだから他の教材に変えよう」といった、これまでの意識は通用しなくなるのです。

この「扱いにくそうな教材」の代表として挙げられるのが「人物教材」ではないでしょうか。そこで、本稿では、「人物教材の作り方入門」と題して、人物教材を作成するにあたっての基本的な事柄について紹介したいと思います。「教科書の教材を用いる」と言っておきながら『作り方入門』とは？」と感じられるかと思います。教材を有効に活用するためには、まずは教材そのものをいかにして作るかについて考えることがいちばんの近道です。つまり、ここで紹介する教材づくりのポイントは、既存の人物教材を授業実践する際にも大いに活用できるのです。

## ●どんな人物を取り上げるの？

取り上げる人物を選ぶためのポイントはただ一つです。それは、「徹底的に批判したとしても、それでもなお輝きを失わない人間としての生きざま」が感じられるかどうかということです。

例えば、最近定番教材として取り上げられることの増えてきた『杉原千畝』の場合、「このままでは確実に失われるであろう命。それを救う方法が、少なくとも自分にはある。」という認識のもと通過ビザの大量発給という決断を下したことが挙げられるでしょう。松岡外相の指示や本国の意向、当時の世界を取り巻く状況、妻への思いなど、彼の心を揺らしたのから、たとえ批判的にアプローチをしたとしても、「自分にはこの命を救うことができる。ならばできることをやる。」という彼の人間としての生きざまは失われることなく光を放ちます。他にも、野口英世や南方熊楠など、破天荒ではあるけれど、いかに批判したとしても輝き続ける人物の生きざまを、道徳科の学習で学びたいと考えます。

ただ、一つだけ気をつけたいのは、「徹底して批判できるほど、客観的な資料による検証がなされているか」ということです。杉原千畝にしても野口英世にしても、さまざまな資料をもとに研究がなされています。自伝を含めた伝記などの書物も容易に手に入ります。逆に、こういった検証がしにくい人物は、教材として活用することは難しいと考えます。



## ●どんな教材にするの？

実は、ここが大変難しいところなのです。私たちは、道徳科の学習で用いる教材を想定したとき、内容項目の理解を深めるために必要な場面を選び、教材文にまとめていくのではないのでしょうか。しかし、人物教材の場合、それだけを意識すると、人物の個性や生きざまといった「人の生き方に学ぶ」視点が弱くなってしまいます。

具体的な授業の場面を想起してみてください。確かに人物教材を用いて授業しているのですが、考えを深める場面での子どもたちの発言が、その人物でなくても言えるような内容に終始してしまっていることはありませんか。あえてその人物を扱わなくても、どこかのAさんでも成り立つてしまうような話し合いになってしまっているとすれば、人物教材を用いる意味はないのです。少なくとも、人物教材を自作する場合、「はじめに内容項目ありき」でエピソードを選んで教材化するのではなく、その人物の輝きの源泉を掘り下げ、できれば生涯が概観できるような教材を作成するのがよいでしょう。

ただし、問題点もあります。人物の生涯をある程度概観できるようなものとなると、1単位時間の学習で活用するには相当長い文章になってしまいます。そんな場合、以下のような方法をとってみてはどうでしょう。

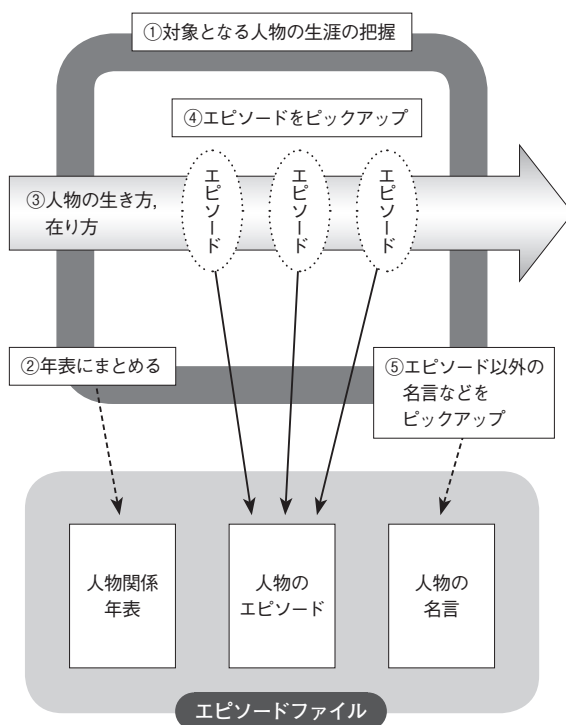
- ① 事前に教材文を読ませておく。
- ② メインの教材は場面を絞り、補助教材として年表などを作成し、事前学習に取り組む。

つまり、子どもたちは「道徳科の宿題」として事前学習に取り組むわけです。特に、年表を作成したり、教材文には書ききれなかったエピソードをプリントとして作成したりすることは、教師の人物研究が深まるだけでなく、子どもたちの興味・関心を喚起することにもつながります。人物教材とは、決して教材文だけを指すではありません。

## ●では、まず何から始めればいいのか？

私が、人物教材をつくる時のパターンは、以下に示したとおりです。

- ① 対象となる人物の伝記を複数集めて熟読し、その生涯を把握する。
- ② 人物の生涯が概観できるよう、年表にまとめる。
- ③ 対象となる人物の生涯を貫いた生き方とその根本にあるものを見いだす。
- ④⑤ ③に関連するエピソードや名言などをピックアップし、詳細を調べる。



教材研究とエピソードファイルとの関連

あとは、③の部分を中心にメインとなる教材を文章化し、その他の部分については年表などの補助教材を作成してカバーします。これは、自作に限らず既存の人物教材を用いる際にも有効な方法ですので、ぜひ一度取り組んでみていただきたいと思います。きっと人物教材の授業が楽しくなりますよ。



第15回

# 地球となかよしメッセージ

## 作品募集 (2017年度)

「地球となかよし」という言葉から感じたり、考えたりしたことを、  
写真 (またはイラスト) にメッセージをつけて表現してください。

応募者全員に  
参加賞が  
もらえるよ!

- 応募資格** 小学生・中学生 (数名のグループ単位での応募も可)
- 応募期間** 2017年7月1日～9月30日  
詳細は「優秀作品展示室」とあわせてホームページをご覧ください。
- 作品テーマ**
- ①身のまわりの自然が壊されている状況を見て感じたことや、自然環境や生き物を守るための取り組み
  - ②さまざまな人との出会いを通して、友好の輪を広げた体験、異文化交流、国際理解に関すること
  - ③その他、「地球となかよし」という言葉から感じたり、考えたりしたこと

◎主催/教育出版 ◎協賛/日本環境教育学会  
 ◎後援/環境省、日本環境協会、全国小中学校環境教育研究会、毎日新聞社、毎日小学生新聞  
 \*協賛・後援団体は昨年実績で、継続申請中です。

応募の決まりなど詳しくはホームページを見てね

<http://www.kyoiku-shuppan.co.jp/>

**教育出版**

「地球となかよし」事務局 TEL 03-3238-6862 FAX 03-3238-6887  
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10

前回  
入選作品



### ピカピカのいのち

ぼくは、生まれてはじめて、せみがおとなになる  
ところを見ました。今までせみのぬげがらは見たこと  
があっただけ、こんなきれいなのが出てくるなん  
てしりませんでした。白くてすきとおっていて、い  
のちのほうせきみたいでした。そおとさわってみ  
たら、ぶにゅとしていました。なんだかこれそう  
なので、ぼくは、どきどきしました。

道徳通信 はばたこう明日へ (第2号) 2017年2月10日 発行

表紙イラスト: 手塚けんじ

編集: 教育出版株式会社編集局  
印刷: 大日本印刷株式会社

発行: 教育出版株式会社 代表者: 山崎富士雄

発行所: 教育出版株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10 電話 03-3238-6864(お問い合わせ)

URL <http://www.kyoiku-shuppan.co.jp>



## なかよし宣言

わたしたちをとりまく自然や社会は、科学技術の進展や国際化、情報化、高齢化などによって、今、大きく変わろうとしています。このような社会の変化の中で、人間や地球上のあらゆる命がのびのびと生きていくためには、人や自然を大切にしながら、共に生きていこうとする優しく大きな心をもつことが求められています。

わたしたちは、この理念を「地球となかよし」というコンセプトワードに込め、社会のさまざまな場面で人間の成長に貢献していきます。

- 北海道支社 〒060-0003 札幌市中央区北三條西3-1-44 ヒューリック札幌ビル6F  
TEL: 011-231-3445 FAX: 011-231-3509
- 函館営業所 〒040-0011 函館市本町6-7 函館第一ビルディング3F  
TEL: 0138-51-0886 FAX: 0138-31-0198
- 東北支社 〒980-0014 仙台市青葉区本町1-14-18 ライオンズプラザ本町ビル7F  
TEL: 022-227-0391 FAX: 022-227-0395
- 中部支社 〒460-0011 名古屋市中区大須4-10-40 カジウラテックスビル5F  
TEL: 052-262-0821 FAX: 052-262-0825
- 関西支社 〒541-0056 大阪市中央区久太郎町1-6-27 ヨシカワビル7F  
TEL: 06-6261-9221 FAX: 06-6261-9401
- 中国支社 〒730-0051 広島市中区大手町3-7-2  
あいおいニッセイ同和損保広島大手町ビル5F  
TEL: 082-249-6033 FAX: 082-249-6040
- 四国支社 〒790-0004 松山市大街道3-6-1 岡崎産業ビル5F  
TEL: 089-943-7193 FAX: 089-943-7134
- 九州支社 〒812-0007 福岡市博多区東恵比寿2-11-30 クレセント東福岡 E室  
TEL: 092-433-5100 FAX: 092-433-5140
- 沖縄営業所 〒901-0155 那覇市金城3-8-9 一粒ビル3F  
TEL: 098-859-1411 FAX: 098-859-1411